

November 2015 subject reports

Japanese B

Overall grade boundaries

Higher level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 13	14 – 27	28 – 45	46 – 60	61 – 73	74 – 87	88 – 100

Standard level

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 11	12 – 23	24 – 40	41 – 56	57 – 71	72 – 86	87 – 100

Higher level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 3	4 – 6	7 – 12	13 – 17	18 – 21	22 – 26	27 – 30

SR to be produced at SL only

Standard level internal assessment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
---------------	---	---	---	---	---	---	---

Mark range: 0 – 3 4 – 6 7 – 12 13 – 17 18 – 21 22 – 26 27 – 30

提出された成果物の特徴および適切さ

今回の試験では、教師に与えられた写真に基づき、日本文化について詳しく色々と発言できる受験者が多いことが目立った。授業でじっくり勉強したトピックに関連した写真を教師が選んだからでもあろうが、日本文化についての知識が深く、専門的な単語を使って発表できたのが非常に良かった。トップレベルの生徒は、日本のことだけでなく、自分の体験談や、自国の文化との比較なども盛り込み、詳しく発表していた。テーマとしては食生活、祭り、学校生活、健康、技術の発展などが多かった。質疑応答の部分では、質問が理解できず、答えるのに戸惑っていた受験者もいたが、大部分の受験者は質問を聞きとり、理解する力があつた。全体的には、答えるときにもう少し積極的に会話に入り込み、単に質問に答えるだけでなく、追加情報を取り入れたりしてもよかった。

評価規準に基づく受験者の到達度

Criterion A: Productive Skills

ほとんどの受験者が聞き取りやすい発音で、簡単な文型を使って自分の言いたいことを表現する力を持っていたが、複雑な文型がなかなか出てこない受験者も目立った。作文を書いているときと違い、話しているときは文型を頭の中でゆっくり考えて文を作っていく時間が少ないので、文型の数は限られていても、本当に定着するまで何回も繰り返し口に出して練習する必要があるのではないかと思われる。上にも書いたが、語彙の幅は非常に広く、日本文化の専門的な面の単語まで知っている受験者が多かったのは、非常によかった。

Criterion B: Interactive and Receptive Skills

多くの受験者が、教師の質問を聞き取り、一通り素直に答える実力は持っていた。しかし、残念だったのが、それだけで終わってしまう場合が多かったことだ。積極的にもう一言言おう、もうちょっと話してみよう、自分の話したいほうへ会話を持っていこうという態度（もしくは会話力）が全体的には欠けていたようだ。そのため、Criterion にある **complex ideas** と判断できるものが少なく、最高得点幅に入れるのが難しかった。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. がんばってもう一言付け足してみよう、もう1つ話してみようという力を養ってください。
2. 試験のとき、何よりも重要なのは、受験者がなるべくたくさん話すことです。従って、教師の質問を聞き取れていない場合は、思い切りもっと簡単な質問を与えてあげてください。
3. 質疑応答のときに、受験者がすでに発表のときに言ったのと全く同じ内容を聞くのは避けてください。写真をベースにした会話に内容が尽きてしまった場合などは

(特に生徒の実力が足りないので同じ内容ではどうしても発展ができないなど)、会話の内容の幅を少し広げても差し支えありません。

4. 写真につける **title** に関しては、「日本の食生活」など、写真を見ると当たり前すぎるようなものもあったので、会話の焦点をもう少し絞りこむように、「日本の高校生の食生活は健康的ですか」や、「日本の学校給食の良さ」というような **title** を考えるようにしてください。

Higher level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 4	5 – 8	9 – 12	13 – 15	16 – 17	18 – 20	21 – 24

SR to be produced at SL only

Standard level written assignment

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 3	4 – 7	8 – 11	12 – 14	15 – 17	18 – 20	21 – 24

提出された成果物の特徴および適切さ

受験者が自分の興味に沿って書く WA は、内容が深く、読んでいて興味深いものが多かった。受験者が自分の調べたいテーマを掘り下げて積極的に取り組んでいた姿がうかがえて、非常に良かった。書いていた内容は全体的に良かったが、個人的な内容に偏りすぎないで、客観的な立場をとることに注意しなければならない。また、日本語で書いている意味を持たせるために、何らかの形で日本や日本文化、日本語話者に関連させてほしいかった。

WA では **Rationale** の書き方が一番難しいので、この点について個人作業に入るまえに教師がもう少し詳しく指導したほうがよいのではないと思われる。WA 全体を通して、複雑な文型を色々使って書いているのは良かったが、語彙に関しては、漢字の入力ミスが目立ったので、注意が必要である。また、インターネットを参考資料に使っている場合、びっくりするほど難しい漢字熟語や表現がときどき受験者の文章に交じっている場合もあり、矛盾が目立った。

評価規準に基づく受験者の到達度

Criterion A: Rationale and Task

WA では Rationale の書きかたが一番難しく、Criterion A で高得点を取る受験者は少なかった。特に、目的の説明が足りなかった例（私は環境問題についてのブログを書きます）や、本文の中でどんな参考資料（sources）がどのように使われていたのかの説明が薄かった例（私はインターネットの記事を3つ読みました）が目立った。参考資料の説明があった場合、非常に複雑な連体修飾が多い長い文を書こうとするあまり、主語述語が全く通らなくなり、読み手として非常にわかりづらい文も多かった。

Criterion B: Organization and Development

全体的に発展もまとまりもある文章になっていた。特にパンフレットの形式を選ぶ受験者が多く、この場合、小見出しなどがあるので、各ポイントの発展は良かった。なお、パンフレットなどを書いている場合、イラストやレイアウトが非常にすばらしく、見た目が美しいものも多かった。読んでいて楽しいので、もちろんデザインに注意を払って書くのは差し支えないが、得点になるのは、日本語の内容や正確さなので、デザインに時間をあまりかけすぎないように注意してほしい。

Criterion C: Language

いろいろ複雑な文型を取り入れようとしている姿勢が見られて、良かった。語彙に関しては、ときどき明らかにインターネットから非常に難しい単語や表現を持ってきていた場合もあったので注意が必要である。また、漢字の入力ミスも多いので、本作業に入る前に、教室活動としてもう少し練習したほうがいいのかと思われた。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 誤字、入力ミスが目立ったので（「自身」と「地震」など）、コンピューターで日本語を打つときの注意事項を徹底的に指導してください。
2. Guide で使われている英単語を日本語に置き換えるとき、適切と思われる単語なら、どれを使っても差し支えありませんが、日本語として正しく、理解しやすい単語を使うように指導してください。特に、WA の訳に「作文」を使っている受験者が多くいましたが、そうすると、「この作文では手紙を書きます。」という文章が出てくることもあり、違和感を覚えました。また、source texts のことを「ソース」と書いていた受験者も多かったのですが、日本語では「ソース」というと、トマトソースやホワイトソースのことを指すのが一般的かと思います。
3. Rationale を書くとき、個人的にこのテーマにどうして興味を持っているのかという説明を入れる必要はありません。
4. Rationale の書きかたで、形式を教わってそれを応用したものだと考えられますが、「私はまず OOO という新聞記事、それから XXX についてのブログ、最後に△△△についてのパンフレットを読んでから、YYY について日記を書くことにしました。」という形式が多く見られました。形式そのものが間違っているというわけで

はありませんが、こう書くと文章が非常に長くなってしまいう上（この一文だけで150字ぐらい書いていた例もありました）、連体修飾の書き方を間違えると、何が何だか読み手として非常に分かりづらくなってしまいます。それより、「YYYについての日記を書きます。そのために、まず新聞記事を読みました。その内容は、……」と書いてもらったほうが、読み手としてはずいぶん分かりやすいです。

5. この課題では **Rationale** が一番難しいので、書きかたを丁寧に指導してください。特に、目的の説明とそれがどう達成されたか、また、参考資料 (**sources**) の詳しい説明がないと **Criterion A** では高得点が取れないことを強調してください。内容よりも **Rationale** のほうが重要で点数を大きく左右するといっても大げさではありません。また、**Rationale** の長さがほぼ 400 字ぎりぎりになっていなければ、内容が足りなく、高得点は取れないだろうと受験者に説明してもよいでしょう。
6. どの部分が **Rationale** で、どこから本文が始まるのか、しっかり分けて書くように指導してください。

Higher level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 8	9 – 17	18 – 28	29 – 37	38 – 45	46 – 54	55 - 60

SR to be produced at SL only

Standard level paper one

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 5	6 – 10	11 – 15	16 – 24	25 – 32	33 – 41	42 - 45

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

今回は受験者全員が難しいと感じた内容は特になかったようで、試験の全体を通してよくできていた。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

読むスピードも充分で全体的によくできていたが、特に問題 D の秋のお弁当についての問題の内容をよく読み取れていた。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

問題 A は環境保護教材を学校に提供するという広告だった。1 番から 4 番は文章のまとめの穴埋め問題だったが、4 番の「はらっても」「はらわなくても」を間違えた受験者の数が目立った。5 番から 8 番は特に問題なく、受験者は簡単な文を読む力はあったようだ。

問題 B は神戸市で IT を使って、震災のときの写真を見ることができるといった内容だった。いつものことだが、10 番から 13 番は「正しい」または「正しくない」の口に○をつけ、そのうえ、正しい理由を書いて初めて点になるので、片方が欠けていて点にならないケースが多かった。また、今回は文が少し長かったので、理由に単語を 1 つ書いただけでは不十分な場合もあり、その理由で点が取れなかった受験者もいた。14 番から 16 番の日本語で質問に答える問題は非常によくできていた。17 番から 20 番の 4 択問題もよくできていたが、20 番のメッセージを読み取る問題は難しかったようだ。

問題 C は歌舞伎役者の問題で、少し難しめの内容だったが、よくできていた。特に日本語で質問に答える 23 番と 24 番は簡単だったようだ。25 番から 28 番は本文に書いてあった答えに対する質問を選ぶ問題だったが、最初の 2 問（25 番、26 番）は特に難しかったようだ。29 番から 32 番の 4 択問題は特に問題なくできていた。

上にも書いたが、問題 D の秋のお弁当の問題は比較的簡単だったようで、33 番から 35 番の質問に答える問題はほとんど全員間違えずに答えていた。36 番から 39 番は出題された定義の単語を探すものだったが、これらはやや難しく、特に 38 番の「電子レンジ」に悩まされた受験者が多かった。40 番から 43 番の 4 択問題はそれほど難しくなかったようだ。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

1. 「正しい」・「正しくない」そして理由を書く問題では、「正しい」または「正しくない」のどちらかを選び、そのうえ理由を書いて初めて点になるので、答の片方を書き忘れないように、受験者にはっきり分らせてください。
2. 単語や文の表面的な意味の読み取りはよくできているようですが、作者の意図など、はっきり書かれていないが示唆している内容を考えながら読む練習がさらに必要です。
3. 答えと質問を合わせる、または段落の内容として適切な見出しを選ぶ、という種類の問題をもっと練習させてください。上のポイントと同じく、1 文単位で読むのではなく、全体的に読み、段落単位でポイントを考え、まとめる力を養ってください。

Higher level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 6	7 – 13	14 – 21	22 – 27	28 – 34	35 – 40	41 – 45

SR to be produced at SL only

Standard level paper two

Component grade boundaries

Grade:	1	2	3	4	5	6	7
Mark range:	0 – 3	4 – 6	7 – 11	12 – 14	15 – 18	19 – 21	22 – 25

今回の試験で受験者にとって難しかった内容

4 番の「トランプ」という単語が難しかったようで、新幹線に乗りながらトランプをし、おしゃべりをし、友達になった、という場面設定を読み取れなかった受験者が目立った。それでも日本の高校生の生活について書いた受験者もいたが、「新幹線」という単語だけに頼り、日本旅行について書いてしまった受験者も目立った。

今回の試験において受験者がよく準備できていたこと

受験者は 1 番と 2 番の日本の祭りやファッションについては詳しい知識があり、しっかり書けていた。特に原宿の若者ファッションについて専門的な知識と語彙をもっている受験者が多かったことには感心した。

Criterion C の文体や文書形式に関して全般的に入念な準備の跡が窺えた。ほとんどの生徒がメール文、学校新聞、パンフレット、日記の基礎的な形式、文体をしっかり把握していた。

Criterion A の言語の質の面でも幅の広い文型や語彙を含んだ作品が多く、複雑な文型、漢字、語彙を使おうとしている姿勢が見られて良かった。

設問ごとの解答結果（強みや弱点）

1 番の国際料理祭りについてのレポートは問題なく上手に書けていた。トップレベルの受験者は、いろいろな国の料理を工夫して興味深く紹介していた。参加したあとのレポートではなく、「今度このような祭りが開かれるので、みなさん参加してください」というような呼びかけや宣伝のホームページになっていたケースも時折見受けられた。

上にも書いたが、2 番の原宿ファッションに関しては、専門的な知識を持って詳しく書いてあった文章が多かった。欲を言えば、日本の若者についてどんな事を初めて知ったかもう少し詳しく書いてあってもよかった。

3 番の自分の国の病院・お見舞い案内に関しては、問題を読み取るのが難しかったようで、入院体験について一般的に書いてあるものの、日本人家庭のための紹介になっていなかったケースが多かった。また、自国の制度を知らない人の観点から考えて説明する力も足りなかった。

4 番は人気だったが、新幹線の中でトランプをして日本人の高校生と知り合う、という問題の設定を読み取れていないケースが多かった。日本旅行をしていて日本の高校生と知り合っただけでこんな事を知った、という内容はまだよかったが、中には新幹線という単語だけに頼り、自分の日本旅行の体験談になっていたケースも目立った。また、「トランプ」という単語を英語で考えてしまったからだと思うが、ハイキングの内容になっていた文章も少なくなかった。

5 番の携帯電話のマナーについての問題はあまり人気がなかったが、この問題を選んだ受験者は非常によくできていた。その日の様子から発展し、自分の携帯電話の使い方などについて考えている日記も多く見られ、内容がふくらませてあってよかった。

今後の指導に関する提案およびアドバイス

問題をしっかり読んで、前に宿題でやったので覚えている作文をなんとなく書くのではなく、問題にそった文章を書くように指導してください。特に学校生活、旅行、祭り、食生活などについて書いている場合はこの傾向が非常に強いので、注意するようにしてください。

点数を一番与えにくかったのが、**Criterion B** の **Message** でした。自分でおもしろい発想を持ち、いろいろ考え、掘り下げて書く力を養ってください。特に、自分の体験談などを例に持ち出し、それを書くのがおもしろくなってしまい、最初の話題から脱線してしまうケースも多いので、書き始めるまえにしっかり案を立てて、字数配分を考慮し、内容を上手にまとめて書くように指導してください。

Criterion A の **Language** に関しては、いろいろな文型や単語、漢字を上手に使っていた例が多かったので、今までどおりに指導を続けてください。

B HL でも充分に点をとれる実力を持っていた受験者も多かったので、**B HL** に挑戦させることも考えてください。